

日本農業技術検定とは

日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人・関連企業等への就業をめざす学生や社会人などを対象に、農業界の人材育成・確保にむけて、農業の知識や技術の修得水準を客観的に把握し、教育研修の効果を高めることを目的とした全国統一の農業専門の試験制度です。

農林水産省の補助事業で制度検討を行い、2007年度から日本農業技術検定協会を設けて実施し、毎年約25,000人がチャレンジして、延べ290,000人が受験しています。現在は農林水産省、文部科学省の後援をいただいています。

これからの農業を担う人材の育成・確保に欠かせない検定として、農業高校など農業系の生徒・学生には勉学の到達度がわかり学習意欲の向上につながり、農業法人など農業関連企業等への就職希望者には自己能力をアピールする資格として注目されています。本検定の資格取得により、入試で優遇する農業大学校や農学系大学も出てきており、優先採用する農業法人もあるなど受験のメリットも拡大しています。JA県連グループとして、営農指導員の資格要件としたり、一般職員の3級資格取得を進める取り組みもみられます。

日本農業技術検定協会

※日本農業技術検定協会の構成団体＝(一社)全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社)日本農業法人協会、(一社)全国農業改良普及支援協会、(公財)農民教育協会、(公社)国際農業者交流協会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)全国農協観光協会、(一社)農山漁村文化協会、(一社)全国農業会議所〔事務局〕の14団体によって構成されています。

日本農業技術検定の概要

等級	1級	2級	3級
想定レベル	農業の高度な知識技術を習得している 『実践レベル』	農作物の栽培管理等が可能な 『基本レベル』	農作業の意味が理解できる 『入門レベル』
試験方法	学科試験 + 実技試験	学科試験 + 実技試験	学科試験のみ
学科試験 受験資格	特になし	特になし	特になし
学科試験 出題範囲	【共通】農業一般 + 【選択】作物、野菜、花き、果樹 畜産、食品から1科目選択	【共通】農業一般 + 【選択】作物、野菜、花き、果樹 畜産、食品から1科目選択	【共通】農業基礎 + 【選択】栽培系、畜産系、食 品系、環境系から1科目選択
学科試験 問題数	学科 60問 〔【共通】20問+【選択】40問〕	学科 50問 〔【共通】10問+【選択】40問〕	50問 〔【共通】30問+【選択】20問〕
学科試験 回答方式	マークシート方式 〔5者択一〕	マークシート方式 〔5者択一〕	マークシート方式 〔4者択一〕
学科試験 試験時間	90分	60分	40分
学科試験 合格基準	120満点中 70%以上	100満点中 70%以上	100満点中 60%以上
実技試験 受験資格	受験資格・免除制度あり※1	受験資格・免除制度あり※2	(実技試験なし)

※1) 受験資格は「1級の学科試験合格者」。2年間以上の就農経験を有する者、又は検定協会が定める事項に適合する者(JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、農学系大学生(農業高校・農業大学校を含む)で農場実習等4単位以上を取得している場合)は1級実技試験免除制度あり。

※2) 受験資格は「2級の学科試験合格者」。1年以上の就農経験を有する者、又は農業高校・農業大学校など2級実技水準に相当する内容を授業などで受講した者、JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、学校等が主催する任意の講習会を受講した者は2級実技試験免除制度あり。